

挑戦続け飛躍

B-bridge International, Inc.
Tazan International, Inc.
Pixera Corporation
Silicon Valley
JaM Japan Marketing LLC
A-Cube, Inc.
English Vitamin, LLC
Tech Dream, Inc.

「シリコンバレーの日本人起業家に聞く」

「シリコンバレー発祥の地」といわれるパロアルトのガレイジで、ビル・ヒューレット氏と、デイブ・バックワード氏が、オーディオ発信器を製作してから約65年。その起業家精神は、現在まで受け継がれ、アメリカ人だけでなく、日本人を含め外国人起業家も増えてきた。ソフトウエア、エレクトロニクス、バイオなど、それぞれの分野で挑戦し続ける日本人起業家7人に、将来の目標と展望を聞いた。

(森廣陽子)

サンヨー・セミコンダクターUSAに勤務していた平強氏は、退社後の1996年、ベンチャー・キャピタル(VC)、タザン・インターナショナルを設立。技術の種の段階からスタートアップ企業に投資するエンゼル投資家だ。

「サンヨー時代の経験から良いアイデアを持っている、熱心な人たちと一緒に仕事をしたい」と思い、投資を始めました。投資をしただけで、投資先企業の理事会に入り、「手弁当で」一緒に仕事をすると、投資先は常時5、6社。二社になって(企業運営を)やるのなら、たくさんはできない。100倍にも200倍にもなるものを自分の時間とお金を使ってやっていきたいというのが本心です」と話す。

半導体エンジニアのバックグラウンドを生かし、半導体、コンピュータ、ソフトウエアなど主にエレクトロニクスの分野で、「これなら世の中で相当のビジネスが展開できる」という技術を見極めてきた。ノートブックコンピュータの電力マネジメント用の半導体を開発したPico Power、サーチエンジンのJunglesなどに投資してきた。

日本人技術者助けたい

他社に買収されたり、失敗した企業もあるという。買収されずに、その後何十年も続く企業に携わっていくことはゴールの一つ。もう一つ、日本人技術者を支援することも目標だ。

「日本の若いエンジニアが、大きく世界に羽ばたくことを手伝えば一番いいと思いますね。日本では大企業に入ると安住の地を得たみたいそこから出す、新しいことを起こさない。日本の若い人たちにチャレンジ精神

これまでの投資先は、大きく成長した企業もあれば、途中で

2004年には、その思いを込めて著書「エンジニアよ 挑戦せよ。」(日経BPI)を出版した。

新しいアイデアを生み出すような深い研究の基礎を持つ人が少ない、チャレンジする雰囲気と起業に挑戦するロールモデルが周りにいない、と日本人技術者の問題点を挙げる。経験豊富なベテラン技術者として、若い日本人技術者の中に「良いアイデアを持っている、熱心な人」を探している。

Tazan International, Inc.
CEO 平強氏



●平強(たいら・つよし)氏 東京都立大電気工学科卒、三洋電機半導体事業部、Fairchild Semiconductor USA、Sanyo Semiconductor USAなどに勤務後1996年、Tazan International, Inc.設立

「15歳の時以来、一貫してアメリカと英語が好き。学歴やお金があっても、自分の本当に好きなものを探してやってみれば、つながっていく。(起業には)自分にとって一番大切なことを探すが大切」

日本人のための英会話教育と教材の制作、販売を行うイングリッシュ・ビタミンの創業者でCEOの八巻ルリ子氏は、こう話す。2003年6月の設立から2年半がたった今、新たな事業展開を始め、まさに大きく成長中だ。

アメリカ人講師を8人雇い、個人レッスンや、スカイプ(無料または格安で世界中と話せるIP電話)を使った電話レッスンも行っているが、中でもメディア事業が急展開をみせている。八巻氏は、シリコンバレーの雰囲気は伝わり、ア

English Vitamin, LLC
CEO 八巻ルリ子氏



ニーズとらえ事業展開

アメリカの文化背景まで分かるよう、独自の教材を制作。ミュージシャンの顔を持つ講師とともに歌を作り、英会話の例文が頭に入りやすくなるよう、工夫を凝らした。これらの教材はiPodなどデジタル携帯音楽プレーヤーにダウンロードして聞けるオーディオファイル形式で作成、同社のウェブサイトでも販売してきた。

05年8月には、iTunes eミュージックストアの日本上陸と同時に配信開始。発売当日には、一日で1万5000件のアクセスがあったという。また同月、ソリスネットワークから英語学習ソフトウェアを発売、すでに1万5000部を販売した。三修社からリスニング用CDと日本語解説付きの書籍を発刊したり、英語学習者のために日本で初め

て英語で書かれた雑誌「イングリッシュ・ゾーン」(中経出版)で連載を始める。さらに、動画対応のiPodの発売を受けて、ビデオ付き教材も制作中だ。

●八巻ルリ子(やまき・るりこ)氏 Santa Ana Community College卒。富士ゼロックス、オランダのゼロックス社などを経て2003年、English Vitamin, LLC設立

Tech Dream, Inc.
社長 府川佳広氏



途上国に役立つ製品を

EMC (Electro Magnetic Compatibility) と呼ばれる、コンピュータや携帯電話などから発生する不要電磁波は、アメリカでは連邦通信委員会(FCC)、日本では情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCC)が取り締まり、企業は生産段階から対策を求められる。

●府川佳広(ふかわ、よしひろ)氏 東京理科大学工学部卒、山武ハネウエル、ソーワコーポレーションを経て2002年、Tech Dream, Inc. 設立

それに特化しているコンサルタントはあまりない。それに(販売している)日本の部品は優れている。それで差別化できている。若手技術者の育成などに努める。京セラの稲盛和夫名誉会長のファンで、「成功するには、絶対成功するんだという情熱と、社会に貢献しなくてはならない」というところを見習いたい」と話す。

発生する不要電磁波は、アメリカでは連邦通信委員会(FCC)、日本では情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCC)が取り締まり、企業は生産段階から対策を求められる。

「50歳になったら(国際協力機構JICA主催の)シニアボランティアに参加したい。それで発展途上国の状況を見て、途上国に貢献できるような自社製品を作りたい」

7年前、日本に入った国際交流グループの活動を通して、「海外で働きたい」と思ったのがすべての始まり。当時は、日本の制御機器メーカーでビルの空調制

御用コントローラーの回路設計をしていた。海外勤務を希望したが実現せず、基盤設計の企業に転職。米国現地法人を立ち上げる間、法人立ち上げのため準備に当たった。しかし、会社が不景気に陥り撤退に。ここで帰ったら「一生後悔する」と独立、起業した。

現地企業を相手に、EMC対策のための回路設計、基盤設計を手助けし、日本製部品の代理店販売を行っている。

当初からEMCに絞ったわけではなかったが、日本でEMC対策に携わった豊富な経験があったため、需要が多く、次第に切り替えた。

「EMCは特異な分野なので、